

南半球便り（その7）：2回目のシドニー出張

3月15日

（1）車でシドニーへ

3月8日から10日まで、シドニーへ2回目の出張をしてきました。今回は、飛行機ではなく、片道3時間をかけて車で行ってきました。その一つの理由は、ぜひ日本車をアピールしたいと思ったからです。キャンベラでは多数の日本車が走っているにもかかわらず、大使公邸にお招きする豪州人要人の殆どは、ドイツの高級車に乗っています。そこで何とか日本車をアピールしたいと思い、今回はレクサスで長駆シドニーへ乗り付けることとした次第です。

公務で訪問先に赴く際には、必ず日章旗をはためかせて走るので、日本と日本車を焼き付けることになります。街頭で手を振ってくれる人がいる時には、本当に嬉しくなります。



オペラハウス



ハーバー・ブリッジ

（2）モリソン首相との面会

今回シドニーに赴いたのは、豪州きっての経済紙であるオーストラリアン・フィナンシャル・レビュー（AFR）紙が毎年実施しているビジネス・サミットに招待されたためでした。豪州の大企業の社長をはじめ、300名ほどが集う大きな会議であり、モリソン首相が主賓として、スピーチをされました。

私もパネリストとして招かれ、幸いにして、講演者やパネリストが集うスピーカーズ・ラウンジで、短時間ながらも、モリソン首相とお話をすることができました。実に率直で気さくな人柄でした。菅総理を年内に豪州へお迎えすることを楽しみにしていると述べられていたことが、強く印象に残りました。



モリソン首相との立ち話

(3) ターンブル前首相との懇談

もう一つの大きな収穫は、紀谷シドニー総領事夫妻の計らいにより、総領事公邸において、ターンブル前首相御夫妻と夕食を共にしつつ、懇談することができたことです。政治家になる前に、弁護士、ゴールドマンサックス豪州代表を務めた経歴から窺えらる通り、国際情勢や世界経済について、縦横無尽に卓見をうかがい、深い洞察を共有していただきました。

御自身のサイン入りの回想録をお土産として頂いたのは、嬉しい驚きでした。懇談の種は尽きず、是非改めて、シドニーかキャンベラで意見交換をさせていただきたいと念じております。



ターンブル前首相との夕食会

(4) AFRビジネス・サミット出席

今回パネリストとして、私にお鉢が回ってきたのは、着任早々AFR紙のインタビュー（[当館HPのインタビュー欄を参照願います](#)）を受けたことに起因します。参加者の大半が、豪州の首相、閣僚、次官級の政府関係者、豪州企業の会長・社長といった政財界の要人からなる中で、外国の大使として唯一招かれたのは、非常に光栄なことでした。

豪中経済摩擦に直面している経済関係者に対して、日本の経験を紹介し、共有することができました。主催者からも、実に率直でタイムリーであったと高い評価を受け、出席した甲斐が大いにありました。

(報道ぶり及び動画のリンクはこちらです)

- ・ [3月10日付 AFR 紙記事](#)
- ・ [サミット動画](#)

(5)「お座敷」は続く



AFR ビジネス・サミット会場となったホテル前の
クイーン・ビクトリア・ビルディング



AFR ビジネス・サミット風景

しばしば、大使稼業は「お座敷芸者」のようなものと言われます。お座敷が掛かれば、どこにでも飛んでいき、相手の関心に応じて日本の立場や見方を相手に分かりやすいように説明していく。これが、大使の大きな仕事の一つです。その意味で、今回、AFR紙にとって1年の最重要行事であるビジネス・サミットに呼ばれたことは、ありがたい限りです。

再来週には、西豪州パースでのセミナーに、スピーカーとして呼ばれています。「声が掛かれば、何処にでも飛んでいく。」そんな姿勢を持ち続けながら、豪州全土で講演行脚をするつもりです。

山上信吾



シドニー湾の眺め